

やまびこ

湯山小学校発行 2号 2025. 5. 27

子どもたちの学び方に寄り添う

特別支援教育主任 中川 亮

私が特別支援教育に関わる中で大切にしている言葉があります。それは、教育心理学者の上野一彦先生の「私たちの教え方で学べない子にはその子の学び方で教えよう」という言葉です。

字を覚えることや書くこと、文章の読み書きや計算に抵抗感や苦手意識を持っている子どもがいますが、子どもには、その子にあった学習の仕方が必ずあると考えています。

例えば、音韻認識（音と文字の一致）の苦手な子どもが九九の学習する時に苦戦をすることがあります。どのようなところが難しいかというと、しちに、じゅうし（ 7×2 ）、はっく、しちじゅうに（ 8×9 ）といったところで、7（しち）を8（はち）と混同してしまうことがあるのです。そんな子どもには、7（しち）を（なな）と言い換えることで覚えられるようになることがあります。

このように、子どもの様子をよく見て、その子にあった学び方を探ることで、よりよく学ぶことができるようになります。その子の適切な学び方を見付けることで、『できない』は『できる』に変わるのです。

私たち教員は子どもたち一人一人にあった学び方を見つけたいと考えています。お子様の学習や生活の様子を見て、困っているところがあれば遠慮なくご相談いただければ有難いです。お子様の『できない』を『できる』に変えるお手伝いをさせていただきます。

<特別支援教育についての相談窓口>

○特別支援コーディネーター（中川・大庭）



修学旅行の思い出



5月15、16日、6年生が修学旅行で広島へ行きました。1日目は、広島平和記念資料館の見学や宮島散策、2日目は、マツダミュージアムやみろくの里に行き、楽しく充実した時間を過ごしました。



1日目の宮島では、厳島神社の鳥居に触ったり、水族館や商店街で買い物をしたりして楽しかったです。いろいろな人のおかげでこの修学旅行に行くことができたので、たくさんの人に感謝を伝えたいです。できれば2泊3日が良かったです。



私は、この修学旅行で「時間を守る」ことを学びました。平和記念資料館で集合の時間を伝えてもらい、班で行動しました。じっくり見ていると、結局時間に遅れてしまい、みんなを待たせてしまいました。「5分前行動をすること」、これからの生活に活かしていきたいです。

